



ABEST21 e-News

No.56, April 2013

THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW,
a 21st century organization

URL: <http://www.abest21.org> TEL. 03-3498-6220 E-Mail: ABEST21@abest21.org

ABEST21 Office Report

- ・ 2013 年 3 月 14 日 : 文部科学省を往訪
- ・ 2013 年 3 月 18 日 : SBI 大学院大学の来訪
- ・ 2013 年 3 月 19 日 : 東芝総合人材開発株式会社を往訪
- ・ 2013 年 4 月 10 日 : 文部科学省を往訪
- ・ 2013 年 4 月 10 日 : 山口大学大学院技術経営研究科の来訪
- ・ 2013 年 4 月 11 日 : 文部科学省を往訪
- ・ 2013 年 4 月 11 日 : 富士ゼロックス株式会社を往訪
- ・ 2013 年 4 月 24 日 : 富士ゼロックス株式会社を往訪
- ・ 2013 年 4 月 25 日 : 国立大学財務経営センターを往訪

教育の質保証と認証評価-3「教育研究上の目的」

わが国の高等教育において、「教育研究上の目的」が学則等に明記され、公表されるようになったのは、平成19年7月31日付けの「大学設置基準等の一部を改正する省令等の施行について」の19文科高第281号文部科学省高等教育局長通知です。この中で「教育研究上の目的」を大学等において明確化することが義務付けられ、大学設置基準第二条において、「大学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則等に定めるものとする。」、また、大学院設置基準第一条の二においても「大学院は、研究科又は専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則等に定めるものとする。」と規定されました。

問題はこの「教育研究上の目的」の取扱いです。認証評価の観点からすると、「教育研究上の目的」は教育研究活動の質保証及び質維持向上にとって鍵となる重要な戦略的な要素です。大学は「教育研究上の目的」を達成するために、教育研究環境の整備をしていかなければならず、そのためには「教育課程」、「学生」、「教員組織」及び「教育研究施設設備と管理運営組織」等の要素を有機的に相互関連づけていかなければならない。教育研究環境の変化によって達成すべき「教育研究上の目的」は進化していかなければなりません。大学は“真空の世界”に存在しているのではなく、“環境の世界”に存続しているので、そのためには「教育研究上の目的」は社会のニーズに応えたものでなければなりません。

しかし、現実にはこの「教育研究上の目的」は抽象的に規定され、大学の“使命”、“建学の精神”または“教育方針”などと同一視されている大学が多い。定期的に検証するプロセスは不明確であり、一度規定された「教育研究上の目的」は、二度と規定することのない不変のものとして扱われています。苦勞して規定された「教育研究上の目的」は永久保存すべき記念の憲章のごときものとして扱われています。教育研究環境の変化において改善すべき課題を見つけ、その課題を解決していく意思決定の判断基準として「教育研究上の目的」は機能していないのです。

このような大学においては、21 世紀のグローバル化時代の要請に応えた「グローバル人材の養成」はとても無理と思われる。「グローバル人材の養成」のニーズは、1990 年代の冷戦構造の崩壊、技術革新の進展、情報化時代の到来などに起因しています。これらの動因により国境の垣根が低くなり、世界市場は一体化し、競争は地球規模で展開され、世界のほとんどの国が市場経済に参加し、一体となって世界経済を形成してきました。加えて IT の革新が情報通信量と速度を飛躍的に高め、情報の世界的流通を拡大させ、企業を中心とした地球単位で規模の経済性を追及していく動きを加速化させ、「経済のグローバル化」の時代を登場させてきたことは周知の事実です。「グローバル人材の養成」が喫緊の課題となることは自明の理です。もし、大学がこの教育研究環境の変化を事前に感知し、「教育研究上の目的」を見直し、その目的達成のために「教育課程」、「学生」、「教員組織」及び「教育研究施設設備と管理運営組織」等の要素のあり方を検証していたならば、にわか作りの大学のグローバル化ではなく、グローバル化の体制が整備された世界に通用する大学として発展してきているはずで、また、たとえ「教育研究上の目的」にグローバル化の要素が含まれても、それを達成する他の構成要素の相互関連が旧態依然のままでは大学の国際化は程遠いものと思われる。

ABEST21 は、受審校の自己点検評価分析の指導において、受審校に「教育研究上の目的」の評価項目・評価基準の認証評価の審査における位置づけを説明する場合に、「教育研究上の目的」に関する下記の事項についての理解の深化に努めています。

- ・「教育研究上の目的」は、明確に規定し、明文化され、公表されているか。
- ・「教育研究上の目的」は、グローバル化時代の要請に応えた国際的に通用する人材の養成を企図したものであるか。
- ・「教育研究上の目的」は、ステークホルダーの意見を反映した内容のものであるか。
- ・「教育研究上の目的」は、受審校が所属する大学の「教育研究上の目的」の一環を担うものであるか。
- ・「教育研究上の目的」は、学生のキャリア形成に寄与する内容のものであるか。
- ・「教育研究上の目的」は、定期的な検証プロセスを定め、教育研究環境の変化に対して見直しを行っているか。
- ・「教育研究上の目的」の達成のために必要な資金獲得の財務戦略を策定しているか。

認証評価において、「教育研究上の目的」は教育の質保証をする基幹要素であり、「教育研究上の目的」を達成する教育課程のシステム化がなされてこないと教育の質維持向上の実現は不可能です。「教育研究上の目的」はその組織の存在価値を社会に示してくるもので、ステークホルダーからも支持されなければ時代の要請に応えた人材の養成は無理なのではないでしょうか。(伊藤文雄)

1. Network Information

1) 2013 年度新役員の委嘱について

2013 年 3 月 9 日、青山学院大学総合研究所 12 階国際会議室で 2012 年度理事会が開催され、任期満了となる理事の改選が行われました。まず、次期理事長選出のために次期理事長指名委員会が組織され、Ilker Baybars 氏 (Carnegie Mellon University) が指名委員会委員長に指名され、別室での審議の結果、現理事長が次期理事長に推薦され、承認されました。引き続き、規則に基づき、理事長より 4 名の Vice Presidents と Executive Secretary の推薦がなされ、審議の結果、これを承認し、理事の推薦については、ABEST21 President, Vice Presidents 及び Executive Secretary で構成される Executive Committee による推薦に一任いたしました。その結果、Executive Committee での選考の結果、できるだけ多くの会員に理事職の担当を経験してもらうために、半数の理事の入れ替えを行い、下記の理事推薦が行われましたのでお知らせいたします。

Executive Committee (Term : April 1, 2013 to March 31, 2015)

ABEST21 President

- Fumio Itoh
Advisor, Aoyama Gakuin Educational Foundation, Japan

ABEST21 Vice Presidents

- Ilker Baybars
Deputy Dean Emeritus, Tepper School of Business, Carnegie Mellon University, USA
- Xiongwen Lu
Dean, School of Management, Fudan University, China
- Robert S. Sullivan
Dean, Rady School of Management, University of California San Diego, USA
- Oleg Vikhanskiy
Dean, Lomonosov Moscow State University Business School, Moscow State University, Russia

ABEST21 Executive Secretary

- Ming Yu Cheng
Professor, Faculty of Accounting and Management, Universiti Tunku Abdul Rahman, Malaysia

Board Members (Term : April 1, 2013 to March 31, 2015)

- Fumio Itoh (ABEST21 President)
- Ilker Baybars (ABEST21 Vice President)
Deputy Dean Emeritus, Tepper School of Business, Carnegie Mellon University, USA
- Xiongwen Lu (ABEST21 Vice President)
Dean, School of Management, Fudan University, China
- Robert S. Sullivan (ABEST21 Vice President)
Dean, Rady School of Management, University of California San Diego, USA
- Oleg Vikhanskiy (ABEST21 Vice President)
Dean, Lomonosov Moscow State University Business School, Moscow State University, Russia
- Ming Yu Cheng (ABEST21 Executive Secretary)
Professor, Faculty of Accounting and Management, Universiti Tunku Abdul Rahman, Malaysia
- Tae-Sik Ahn
Professor, College and Graduate School of Business, Seoul National University, Korea
- John Benson
Head, School of Management, University of South Australia, Australia
- Siriwut Buranapin
Dean, Faculty of Business Administration, Chiang Mai University, Thailand
- Gugus Irianto
Dean, Faculty of Economics and Business, Universitas Brawijaya, Indonesia
- Ali Khatibi
Dean, Faculty of Business Management & Professional Studies, Management & Science University, Malaysia
- Qin Hai Ma
Dean, School of Business Administration, Northeastern University, China
- Jossy Prananta Moeis
Acting Dean, Faculty of Economics, Universitas Indonesia, Indonesia
- R. Taggart Murphy
Program Chair, MBA Program in International Business, Graduate School of Business Sciences, University of Tsukuba, Japan

- Lawrence B. Pulley
Dean, Mason School of Business, College of William and Mary, USA
- Kazuo Tanigawa
Advisor, Toshiba Corporation Principal Office, Japan

Auditors

- Nobue Susie Brown
Associate Dean, McCombs School of Business, University of Texas at Austin, USA
- Kouichi Saitoh
Professor, School of Business Administration, Nanzan University, Japan

Membership Division

| | |
|--|---|
| Membership Division (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Director | • Ilker Baybars Deputy Dean Emeritus, Tepper School of Business, Carnegie Mellon University, USA |
| Deputy Director | • Gugus Irianto Dean, Faculty of Economics and Business, Universitas Brawijaya, Indonesia |
| Membership Committee (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Chair | • John Benson Head, School of Management, University of South Australia, Australia |
| Vice Chair | • A. Seetharaman Dean, SP Jain School of Global Management, Singapore |

Network Division

| | |
|---|--|
| Network Division (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Director | • Xiongwen Lu Dean, School of Management, Fudan University, China |
| Deputy Director | • Noor Azizi Ismail Dean, Othman Yeop Abdullah Graduate School of Business, Universiti Utara Malaysia, Malaysia |
| Network Committee (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Chair | • Popy Rufaidah Vice Dean, Faculty of Economics and Business, Universitas Padjadjaran, Indonesia |
| Vice Chair | • Alberto L. Buenviaje Dean, Ateneo Graduate School of Business, Ateneo de Manila University, Philippines |

Accreditation Division

| | |
|---|--|
| Accreditation Division (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Director | • Robert S. Sullivan Dean, Rady School of Management, University of California San Diego, USA |
| Deputy Director | • Yoshihiro Tokuga Dean, Graduate School of Management, Kyoto University |
| Accreditation Committee (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Chair | • Takeshi Hibiya Audit & Supervisory Board Member, Fuji Xerox Co., Ltd. |
| Vice Chair | • Ruslan Prijadi Head, Faculty of Economics, Universitas Indonesia, Indonesia |

| | |
|--|---|
| Peer Review Committee (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Chair | ・ Hiroe Tsubaki Vice Director-General, The Institute of Statistical Mathematics, Japan |
| Vice Chair | ・ Arfah Salleh Dean, Putra Business School, Universiti Putra Malaysia, Malaysia |
| Peer Review Team Committee (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Chair | undecided |
| Vice Chair | undecided |

Research Division

| | |
|---|---|
| Research Division (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Director | ・ Oleg Vikhanskiy Dean, Lomonosov Moscow State University Business School, Moscow State University, Russia |
| Deputy Director | ・ Ken Kaminishi Dean, Graduate School of Innovation & Technology Management, Yamaguchi University, Japan |
| P6-Case Writing Committee (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Chair | ・ Siritwut Buranapin Dean, Faculty of Business Administration, Chiang Mai University, Thailand |
| P7-Accreditation System Committee (Term: April 1, 2013 to March 31, 2015) | |
| Chair | ・ Ruslan Prijadi Head, Faculty of Economics, Universitas Indonesia, Indonesia |

2) 文部科学省に 2012 年度分野別認証評価の審査結果の報告について

ABEST21 は、2013 年 3 月 14 日に文部科学省の高等教育局高等教育企画課に、4 月 10 日に高等教育局長板東久美子氏に、そして 4 月 11 日に高等教育企画課長浅田和伸氏に、それぞれ 2012 年度分野別認証評価審査結果の報告をしました。

3) 東芝総合人材開発株式会社の往訪について

2013 年 3 月 19 日、東芝総合人材開発株式会社代表取締役社長佐野十久司氏を新横浜の本社に訪ね、ABEST21 の認証評価委員会(Accreditation Committee)のあり方について意見交換をしました。現在、ABEST21 では認証評価の実質的な審査は専門審査委員会(Peer Review Committee)で行われているが、ビジネススクールの教育の使命から産学連携でのビジネススクールの教育の質保証をステークホルダーのニーズに応えたものにしていくためには、専門審査委員会と認証評価委員会との役割をより一層鮮明にしていくことが必要ではないかということで、委員会のあり方についての相談をしました。

4) 富士ゼロックス株式会社の往訪について

2013 年 4 月 11 日、富士ゼロックス株式会社本社に常勤監査役日比谷武氏を訪ね、ABEST21 認証評価の国際展開について意見交換をしました。現在、ABEST21 の認証評価システムは認証評価委員会(Accreditation Committee)と専門審査委員会(Peer Review Committee)とから構成されているが、マネジメントに優れたマネジメント人材の養成を目指すビジネススクール教育のシステム化をより一層推進していくために、認証評価委員会の審議はステークホルダーの視点から、また専門審査委員会の審議はピアレビューの視点から、それぞれ教育研究活動の評価をしいていくことについて意見交換をしました。

5) 第 23 回マネジメント人材育成協議会の開催について

2013 年 5 月 17 日（金）、南青山会館で第 23 回マネジメント人材育成協議会が開催されることになりました。マネジメント人材育成協議会では第 3 次報告作成を目指して「ビジネススクール教育における産学連携のあり方」を審議し、前回は経営分野専門職大学院の早稲田ビジネススクールにおける産学連携の実情について報告が行われましたが、今回は経営分野専門職大学院の京都大学ビジネススクールの徳賀芳弘院長より京都大学ビジネススクールにおける産学連携の実情についての報告が行われます。

6) Chiang Mai Conference の開催について

2013 年 7 月 4 日～6 日、タイ国チェンマイ市に所在する Chiang Mai University で、Chiang Mai Conference 2013 を Chiang Mai University と ABEST21 との共催で開催されます。現在、チェンマイ大学と ABEST21 Network Committee とで Chiang Mai Conference 2013 組織委員会を構成し、プログラムの最終調整が行われているが、ABEST21 Research Project-6 (CSR Case Writing) と Research Project-7 (Accreditation System Model) の調査研究結果の発表が主なテーマとなります。宿泊ホテル等の詳細な情報については組織委員会から報告される予定です。

| | |
|---|---|
|  <p>Welcome to Chiang Mai, Northern Thailand</p> <p>Enhancing Global Knowledge Networking Faculty of Business Administration, Chiang Mai University July 4-6, 2013</p>   |  <p>Welcome to Chiang Mai</p> <p>Tentative Agenda</p> <ul style="list-style-type: none">July 4, 2013: Arrival Day 6PM: Welcome Party at Chiang Mai Night Safari,July 5, 2013: Seminar Day<ul style="list-style-type: none">-Key note speaking on Philosophy of Sufficiency Economy-International Symposium for Project 6, Fuji Xerox CSR Case Writing- International Symposium for Project 7, Developing Asian Accreditation SystemJuly 6, 2013: Site Visits<ul style="list-style-type: none">-7AM Witness Suthep Hill Trekking Ceremony-Company visit-Local business visit-Farewell Party |
| ACC-BA CMU Business School | ACC-BA CMU Business School |

2. Quality Assurance Information

1) Maintenance Accreditation Seminar の開催について

2013 年 5 月 17 日（金）、南青山会館でわが国の専門職大学院（経営分野）の維持認証評価のセミナーが開催されます。わが国においては専門職大学院制度が 1999（平成 11）年にスタートをしましたが、専門職大学院は 5 年毎に分野別認証評価を受けることが義務付けられています。その結果、ABEST21 の経営分野専門職大学院の分野別認証評価も第 2 周目に入り、最初の初審認証評価と区別しての維持認証評価が行われます。維持認証評価においては、特に初審認証評価と比べての「教育の質維持向上」の視点の評価が重要となってきます。「教育の質維持向上」については、ABEST21 は認証校に認証後の 3 年間にわたり改善課題の「実行計画履行状況報告(Progress Report)」を求めてきていますが、維持認証評価ではそれを踏まえてのより高度の時代的要請に応えた「教育研究上の目的」の達成を目指す受審校の教育システムを評価していきます。

2) Initial Accreditation Seminar の開催

2013 年 5 月 20 日（月）、マレーシアのクアラルンプールで Accreditation Seminar 2013 が開催されま

す。2013年度の「認証評価計画 (Accreditation Plan)」及び「自己点検評価報告 (Self-Evaluation Report)」の提出期限が2013年6月30日までですので、提出準備をしている受審校に対して最後の分析指導を行うものです。このセミナーにはロシア、インドネシア及びマレーシアの諸国から、SERセミナーに5校及びAPセミナーに6校の参加があります。このセミナーは下記の講師陣により、Management and Science University(MSU)のMSU City Campus, MSU Learning Centreで行われます。

Fumio Itoh (ABEST21 President)

Ming Yu Cheng (ABEST21 Executive Secretary, Universiti Tunku Abdul Rahman)

Ruslan Prijadi (Vice Chair of Accreditation Committee, Universitas Indonesia)

Arfah Salleh (Vice Chair of Peer Review Committee, Universiti Putra Malaysia)

Ali Khatibi (Chair of ABEST21 Malaysia Network Committee, Management and Science University)

3. Research Information

=====

Project-7 報告書の提出について

Joint Research Project-7は、ABEST21理事長のもとで5月末日提出の最終報告書の整理がなされています。報告書はアジアで国際的に通用する認証評価システムのモデルの構築を目指したもので、現在、ABEST21が日本、マレーシア、シンガポール、インドネシア、タイ、中国及びオーストラリアのビジネススクールの認証評価の審査において習得した事実に基づいてのモデルです。各国のビジネススクールは、その国の学校教育法に基づいて認証評価を受けることが義務付けられていますので、国際的な認証評価の受審は各ビジネススクールの選択肢の一つとなります。従って、国際的に通用する認証評価システムモデルはアジアの多様性に基づく認証評価システムの調和と同時に、アジアの独自性にも配慮したモデルの構築を考えています。

4. Membership Information

=====

新会員の紹介-Master of Management, Satya Wacana Christian University, Indonesia

この度、ABEST21 Indonesia Network Committeeより推薦のありました Master of Management, Satya Wacana Christian University の School Membership が、Membership Committeeにより承認されました。Satya Wacana Christian University は、Indonesian Christian Teaching Educational Tertiary Institution を前身とし、1956年に9つの教会によって設立されたインドネシアのジャワ島中部、ジョクジャカルタ近郊の高原都市であるサラティガにキャンパスを有する私立大学です。教員数は約380名で、現在約12,560名の学生が在籍しています。この度入会された Master of Management は2,000年に設立されました。Master of Managementの代表者は Professor Christantius Dwiatmadja Satya Wacana Christian University の URL www.uksw.edu